

【 A. 取り組みの全体像】

立ち上げ年度

令和6年度

選出·打診時

の工夫

1.自治体の概	要											
	自治体名		市原市	市 担当部局名		保健福祉部 共生社会推進課			267,226 (人) 〈令和6年10月/住民基礎台帳			
自治体 庁内連携部局 内連携 (メイン)		保健福祉部共生社会推進課		庁内連携部局 (メンバー)		市原市孤独·孤立対策地域協議会関係						
		連携内容	孤独・孤立対策関係事業の実施		連	携内容	情報共有、ケース事例検討					
2.形成をめざす	地方版連	携PFの姿										
従前の取り組み、外 ※重層の取り組み、外 部組織連携、地域	□令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始し包括的な相談支援体制やアウトリーチ支援体制を構築したが、支援機関との多機関協働や、社会参加の支援、地域づくりの支援において、取組の難しさがあった。 □令和4年度地方版孤独・孤立対策官民連携PF推進事業採択。伴走支援を受けながらPF体制整備について調査検討。 □孤独・孤立対策をきっかけに、福祉に留まらない多様なプレイヤーの参画を図るため、令和6年度に「市原市孤独・孤立対策地域協議会」及び「市原市孤独・孤立対策地域協議会」及び「市原市孤独・孤立対策に設置。			実現したい状態 ※構築する仕組み/ 支援対象の住民を	今年度の ゴール	——— A = # = BB (U) (1.1 B = 7 + 1)						
コミュニティ形成等				取り巻く環境 · 。	最終的なゴール	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -			目やノウハウの共有と意見交換 プロジェクトを提案し、会員等の を図るためのネットワークを構築			
3.地方版連携F	3.地方版連携PFの外部連携体制 4.PF連携による価値や工夫_考え方											
地方版連携PF 立5上げ年度 令和6 年度	参画メンバー	孤立問題に関連が	があると見込まれるPF等	ネットワークのうち、孤独・ に属する団体 心が高く、PFの趣旨に賛	→ 孤 会	 □ PF会議と協議会を連続する一体のものとして設定 ► 孤独・孤立対策を、福祉以外の分野を取り込み、福祉分野との接点を増やす機会と捉える ► 協議会は、できるだけ、既存の資源を活用し、既存の会議体、既存のネットワーク 						
	選出・打診の工夫	画、生涯学習等の		舌動、地方創生、都市記 触。担当部署で連携実終 連携事業を持ちかけた。	† を∕ 責 ▶ PF NP	をベースに、機能を重ねた PFは、相談の中核を担う行政機関、民間の相談支援機関に、中間支援団体、 NPO団体、民間事業者等の関係会員、パートナー会員を加えた形で、福祉分						
地域協議会	参画メンバー			援機関で構成する「市原 見、消費生活、健康、自	》 多	に留まられ 様な主体	の数だけ凩り事やアイデア、ノ					



殺対策、地域連携の分野を加えて構成

で、会議内で協力を要請

・ 庁内横断的な会議体で協議体のあり方や接点を整理・提示した上

□ 社会課題に対し、地域活動団体、企業、福祉事業者の数だけ困り事やアイデア、ノ

出す仕組みとして、PFを介したアクセスの機会を増やす

ウハウがあるものと捉え、課題とアイデアの組み合わせによる連携や解決方法を生み

【 B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図

孤独・孤立対策プラットフォーム

社会課題をみえる化、共有化し、持続可能な地域づくりにつながるような方策を検討、推進する場

多機関協働体制

• 多分野・他分野の連携と 協働による支援体制整備

相談機関連絡会

- 地域包括支援センター
- 基幹相談支援センター
- いちはら生活相談サポートセンター ●

• 協議会では、必要な情報交換・

支援の内容に関する協議を行い、

関係機関等に基づく支援、当事

者等に関する情報の提供等の

必要な協力を求める。

- いちはら福祉ネット
- 社会福祉協議会
- 千葉県医療SW協会
- 生活福祉課
- 子ども家庭総合支援課
- 子育てネウボラセンター
- 子育て支援センター
- 青少年指導センター
- 指導課SSW

孤独・孤立対策により、 重層的支援体制事業の

- 包括的相談支援• 参加者支援の体制強化
- 参加支援・地域づくり支援に 多機関協働取り入れる

包括的支援 参加支援

凡例)

相談職による 孤独しがちな人の 伴走型の支援 社会参加の支援

● 参加している組織

地域づくり支援

重層的支援体制事業

会議体・体制などの説明

地域住民等の つながり・支えあい

幹事会

- 協議会の運営に必要 な事項や全体会の議 案等を決定
- 「相談機関連絡会 Iの 定例会と兼ねて開催

関係部局

- 消費牛活センター
- 地域連携推進課
- 保健センター
- 共牛社会推進課

関係会員

行政関係団体、中間支援 団体、孤独孤立対策に関 係する市の附属機関などに 参画する団体

パートナー会員

● 趣旨に賛同する NPO団体、民間事業者等

事務局

会員

888

● 市原市保健福祉部 共生社会推進課

孤独:孤立対策地域協議会 協議会員

新たな価値共創の実践の場

- 作業部会 協議会員の提案により必要に応じての設置する
- 課題を共有し対話により解決を目指す実践の場
- 会員以外の者も参加可能

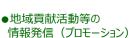
新たな担い手 社会資源の創出

支援事業、在宅医療・介護連携推進事業、

公的支援の創出

生活支援体制整備事業、困窮者等の地域づくり 認知症地域支援・ケア向上事業など既存事業

PFの主機能



地域課題の情報提供

日常的なマッチング

事業活動の情報提供

- ●地域貢献活動等の情報提供





社会貢献活動 団体活動



















PF



【C.試行的事業】_一覧(1/2)

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の	ロ 支援団体等の負担増にならない配慮
ポイント・工夫	ロ 実効性のある取組を持続するための仕組みの構築

事業名称	事業内容	目的/期待効果·KPI				実施時期	発注先 (予算)
福祉関係者合同研修会	市原市社会福祉協議会が主催した「市原市地域福祉関係者合同研修会」の会場費を負担した	•	「居場所」に関する理 効果検証項目	解度の向上 > 参加者数506名(行政16名 民生・児童委員311名 地区社協・小域NW等179名) > 約7割の民生児童委員の参加	✓	9月:準備・実施	公益財団法人市 原市文化振興財 団 (13万円)
, 孤独·孤立 対策PF会議	【業務内容】市民フォーラムを開催した(3時間) 【対象】孤独・孤立対策PF会員 等 【形式】対面90名規模、後日オンライン配信予定 【次第】 開会あいさつ(市原市長) 基調講演(順天堂大学 スポーツ健康科学部 松山 毅 氏) 市からの報告 ワークショップ、発表、講評 閉会あいさつ	•	孤独・孤立対策に関	関わる様々な団体メンバーの意識啓発する知識・情報の共有ンバー間での関係構築および連携強化 >フォーラム参加者数69名 > 孤独・孤立に関する理解度:深まった90.2% > 連携PFへの参画意向: 興味あり86.3% > フォーラムへの満足度98.0%		9月-:準備 11月:実施	いちはら市民活動協議会 (80万円)
3 ゆるサポ®研修	【業務内容】地域のつながりづくりに係る研修を実施した(3時間) 【対象】福祉の専門職 【形式】対面20名規模 【講師】淑徳大学 総合福祉学部 髙梨 美代子氏	•	地域共生社会の理念効果検証項目	⇒ が行動指針の啓発⇒ 参加者数17名⇒ 研修全体の満足度:満足80.0%⇒ 研修の理解度:深まった86.6%		12月- : 準備 2月 : 実施	淑徳大学髙梨氏 (3万円)



【C.試行的事業】_一覧(2/2)

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- ロ 支援団体等の負担増にならない配慮
- ロ 実効性のある取組を持続するための仕組みの構築

	事業名称	事業内容		E	的/期待効果·KPI	実施時期	発注先 (予算)
171	企画提案型研修委託事業	【業務内容】孤独・孤立対策PF会議作業部会(コミュニティラボ)を 実施した(2時間) 【対象】こども食堂運営団体、こども食堂支援企業等 【形式】対面20名規模				√12月-:準備 √1月:実施	いちはら市民活動 協議会 (市費:10万 円)
		【内容】 開会あいさつ WSの目的と流れの説明 シナリオとワークシートの説明 グループ討議 議論結果の共有と感想の共有 閉会		効果検証項目	 参加者数18名 (こども食堂運営団体、地域団体、民間企業、子育て支援団体、NPO団体、お寺、社協、相談機関、大学、医療関係、行政) 全体の満足度:大変満足37.5%、満足62.5% 		※構成を事業内で検討
		【業務内容】こども未来キャラバンを実施する予定(5時間) 【形式】対面約500名規模 【内容】 こども食堂フェスティバル、防災協定締結式、消防服着用体験、NTT 防災無線体験など		具体的な活動機会の ども食堂・ちいき食堂 5災意識の向上 効果検証項目		✓12月-:準備 ✓3月:実施	Amityいちはら子 供食堂 (120万円)

7.次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を例挙

- PF会議作業部会の本格的な展開
- 重層的支援体制整備事業の新たな取り組み(オンライン合意形成システム、社会資源管 理システム) との連携
- 改定地域福祉計画への事業反映

8.孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 研修会やフォーラムは盛況で、参加者の孤独・孤立対策に係る関心も確認できた。
- 民間企業からの連携の提案があった。(協議中)
- SNSで発信したところ従来の広報とは異なる反応が得られた。
- 他自治体や各種団体の要望により説明を行った。



【C.試行的事業】_1. 福祉関係者研修会の開催

• 名称:市原市地域福祉関係者合同研修会

日程: 令和6年9月19日(木)会場: 市原市市民会館 大ホール

• 例年は民生委員児童委員協議会全体研修として開催されている場を活用し本研修を実施したことで、居場所に関わる多様な主体が幅広く参加

「居場所」に関する理解度の向上本研修を契機として、市原市孤独

い

結果

 本研修を契機として、市原市孤独・孤立対策PFへの多様な主体の参加を 促進

• 参加者数506名(行政16名 民生·児童委員311名 地区社協·小域 NW等179名)

• 市内約7割の民生児童委員の参加

プログラム内容

- 開会あいさつ(市原市長)
- 基調講演「人と人、人と社会がつながる地域の居場所」 (立命館大学 共通教育推進機構 准教授 小辻 寿規 氏)
- 市の取り組み説明

▼講演内容

要

I

孤独・孤立対策推進法の概要

地域における居場所の役割

居場所の実践事例

▼居場所づくりと孤独・孤立対策の 取り組みが連動



法律が成立した背景・目的を社会構造の 変化を踏まえて解説。

「まちづくり」と「福祉」の視点から、居場所機能を考える。 (居場所の変遷)

多様な居場所が地域にどのような効果をもたらしているか、対象を限定しない包摂性の高い実践について豊富な事例を用いて説明。

▼地域福祉の実践者約500名が参加



取組の効果

- 孤独・孤立対策が社会の重要課題であることを幅広い関係者が認識し、それぞれの役割や機能を考える機会となった。
- 本研修会を契機に、多様な参加者の連携意識を醸成し、分野を超えた孤独・孤立対策PFの構築を目指す。

▼居場所に関わる多様な関係者が研修に参加



▼研修を通じて、市PFへの参加を 促進

市原市孤独·孤立対策 PF

- 福祉分野にとどまらない多様な主体が参画
- コンセプトは、「社会課題を 見える化、共有化して、 みんなで解決を目指す場」



【C.試行的事業】_2. 孤独·孤立対策PF会議の開催

要

名称: 社会のつながりと居場所を考えるフォーラム

日程: 令和6年11月17日(日) 13:00-16:30

会場:夢ホール

幅広い分野に関わる福祉団体を巻き込み、展示品を募った。 参加者が自ら選択したテーマでテーブルワーク。ファシリテーター配置、ワーク

ルール設定などの工夫で、円滑なワークを促した。

講演及びワークの様子を録画し、後日オンラインでの動画配信を行う。

ねら 各分野における人と人とのつながりづくりに資する取り組み同十の連携を促す。 • 社会的なつながりづくりの重要性と、市原市の地域資源の多様性を市民、関

来場者数:69名(一般53名、行政関係者16名)

係者等に広く周知し、気づきと変化を促す。

フォーラム全体満足度:大変満足45.1%、満足52.9%

プログラム内容

- 開会あいさつ(市原市長)
- 基調講演「孤独・孤立化する社会とつながりづくり」 (順天堂大学スポーツ健康科学部 先任准教授 松山 毅氏)
- 市の取組説明
- グループワーク 3つのテーマの選択制で意見交換

▼グループワークテーマ





▼グループワークの様子



▼PF関係団体の紹介



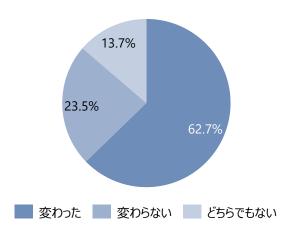
アンケート結果

- 当日配布アンケートの回収数:35
- インターネットによる回答数:16
- グループワーク参加者 67 名中 51 名からの回収(回収率 76.1%)
- 孤独孤立対策PFへの参画への関心度: 興味あり86.3%

▼本フォーラムに参加して、

結果

孤独・孤立対策についての意識や考えは変わったか



- ▼前間(左)の理由、またどう変化したか
- 市原市内にある関係団体の多さに 驚きました。普段の会議はいつものメ ンバーという印象がありますが、新た なつながりができたことがとてもよかっ たと感じます。
- テーブルワークを通じて、立場を超え て一生活者としてアイデアを出し合う ことができると感じました。
- 良い意味で(自分の意識や考え は)変わらない。でも、孤独や孤立 について考えている人が多くいること に感銘しました。
- ▶ 狙い通り市内の団体のネットワーク 構築につながった



【C.試行的事業】_3. ゆるサポ®研修の実施

「ゆるサポ」は髙梨美代子氏の登録商標です。 (商標登録6005977)

要

名称:福祉の専門職のための地域のつながり研修~ゆるサポ®~

日程: 令和7年2月19日(水) 13:30-16:30

会場:市原市市民会館 大会議室

地域のつながりづくりの目的として「支援者支援」の視点を位置づけ、専門職 の協力を求める。

どのような支援の場面にも共通する、価値観・標準的な行動であって、認知 症サポーター等の制度と屋上屋を架すことにならないよう留意する。

ねらい

「ゆるサポ®」をキーワードに、共生社会の実現に向けて地域にいる誰もが相 手と自分を気にかけ、できる範囲で支え合う、ゆるやかにつながる関係づくりの 意識を地域共通の価値として普及を図る。

結果

相談支援機関の専門職など17人が参加し、講義とグループワークを通じて、 地域で実践可能な具体的な行動を学んだ。

プログラム内容

- 開会あいさつ
- 基調講演「ゆるサポ®のすすめ 支援体制を活かした支援 1
- グループワーク「普段のかかわりから考えよう」 (講師: 淑徳大学 総合福祉学部社会福祉学科 助教 髙梨 美代子氏)

▼研修内容

地域のつながりを大切にする機運を醸成 する「ゆるサポ®」の理念を学び、実践に 活かしながら、周囲に伝達する。

▼地域共通の価値として理念を浸透

中核的支援者



社協·包括· 相談機関・ケアマネ等



地区社協・小域ネットワーク・ 民生委員・町会・ボランティア・地域住民等

▼グループワークの様子



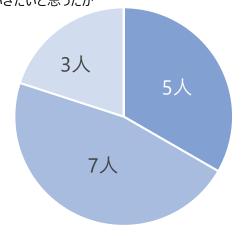
▼相談機関を中心にチラシを配布



アンケート

- 研修参加者17名中15名からの回収(回収率 88.2%)
- 研修全体を通じて満足と回答した割合:80.0%

▼研修に参加して、ゆるサポ®の理念を広めて いきたいと思ったか



少し思う

思う

▼研修体験後の感想

- 相手が大切にしていることや好きなこ と、相手の現状を否定しない強さを、 相談を受ける側に必要な能力と感じ ました。
- 専門職の立場以外の立場からの発 想がなくなってしまっている現実を痛 感しました。
- 何が出来るかを考えて行くためにも、 今後可能な範囲で、研修に参加さ せていただきたいと思います。
- 今後もサポートできるシステムづくりを 考えていきます。



どちらでもない

【C.試行的事業】_4.企画提案型研修委託事業の実施(作業部会)

概 要

I

夫

名称:孤独・孤立対策PF会議作業部会(コミュニティラボ)

日程: 令和7年1月21日(火) 10:00-12:00

会場:いちはらウエルシアコミュニケーションセンター

参加メンバーの多様性を確保した。

事前のヒアリングによりペルソナ設定、カスタマージャーニーを作成し、短時間で 課題検討プロセスを体験できるように配慮した。

市原市の孤独・孤立対策PFのコンセプトは「社会課題を見える化、共有化し て、みんなで解決を目指す場」。

こども食堂の「課題、アイデア、意見を可視化する」を通じて課題解決方法に ついて検討し、こども未来キャラバンの実施内容に反映する。

メンバー:18名(こども食堂運営団体、地域団体、民間企業、子育て支援団体、 NPO団体、お寺、社協、相談機関、大学、医療関係、行政)

満足度:大変満足37.5%、満足62.5%

プログラム内容

- 開会あいさつ
- WSの目的と流れの説明
- シナリオとワークシートの説明
- グループ討議
- 議論結果の共有と感想の共有
- 閉会

▼グループワークの様子



体験者の感想

- PF立ち上げにあたって、中心的に動いている方の話を聞けたので、解像度が上がり ました。また、他団体の取り組みや普段の課題など垣間見えたので、実際のPFが 動き出した際のイメージが湧きました。
- 仕組みやねらいはよく理解できました
- こども食堂側の悩み、繋がりなどの悩みなど企業側から見えにくい部分が知れたこと、 問題点を直接働いてる方々から聞けたこと。
- 市や県、国の目指す姿の説明から、ペルソナを設定してディスカッションに繋げてくだ さった点がわかりやすい理由だと思います。またファシリテーターがとても上手だった為 スハーズに理解できたのだと思います。
- こども食堂に関して、関わった事がなかったので、運営方法や困り事など知る事がで
- 素晴らしい取り組みだと思います。
- 今回とてもためになり、色々な方々の色々なやり方や悩みなど聞けたのでとても参 考になりました。また参画したいです。
- 自分たちでコンタクトを取るのには限界があるのでコミュニケーションの場としてもとて も有意義でした。
- 今回は普段の業務で関わることの少ないテーマだったので、学びが多くありました。 今後も参加をしていければと感じました。
- 今回のPF会議には将来性を感じました。今は新総合計画の見直し時期で他の 部署でも同様な取り組みが進められています。PFは市の分野横断でプロボノで地 域のあらゆる主体を巻き込んでいくことを切に希望します。
- 様々な経験をお持ちの方と、課題について考える体験は、率直に面白かった。こ の先まだ見えないこともあるが、どのような方向に繋がっていくのかが楽しみ。



ねらい

結果

【C.試行的事業】_5.企画提案型研修委託事業の実施(こども未来キャラバン)

名称: こども未来キャラバン

日程: 令和7年3月22日(土) 10:00-15:00

会場:いちはら子ども未来館(we ほーる)

講演で災害時にこども食堂と地域の人々でできることを考えることを促した。

映像記録を行った。

要

飲食出店では、親子が喜ぶものを商品とした。

地域のこども食堂の認知普及活動を目指すとともに、運営費の捻出など活動 ねらい 継続のための協力を仰ぐ一助とする。

市原市、木更津市、袖ケ浦市、君津市、富津市の隣接市間で防災協定を 結ぶことにより今後の災害に備え、防災意識を高める。

来場人数:約800人(内大人:300人、子ども:500人)

プログラム内容

- いちはら子ども未来館1F
 - 10:00-15:00 飲食出店(屋外)、ワークショップ(屋内)開催

プログラム内容

- いちはら子ども未来館3F
 - 10:00-11:00 防災締結式・トークセッション (講師:一般社団法人 四番隊 代表理事 伊藤 純氏)
 - 12:00-15:00 企業PRブース

▼講演の様子

結果



▼企業PRブース





屋内ワークショップ

【D.PF構築プロセスにおける留意点】

(ア)

初期段階

① 主担当部署・主担当者の設定

【R4年度6月~】

▶ 重層的支援体制整備事業を所掌する「共生社会推進課・地域共生係」が 担当。

②担当者の初動

【R4年度6月~】

- ▶ 重層的支援体制整備事業の取組と孤独・孤立対策との関係整理。
- ▶ 令和4年度地方版孤独·孤立対策官民連携PF推進事業申請。
- ▶ 既存の会議体・ネットワークによるつながりを活用し、既存事業との連続性 に留意することで、新規事業の負担感が生じないように配慮した。

③ 地域の現状把握

【R4年度8月~】

支援機関と福祉以外の地域づくりに関わる部署担 当者へヒアリング、重層的支援体制に関連する外 部機関及び福祉関連NPOに対するアンケートを 通じ、ケースの実態を知るとともに要支援者を支援 している側の困難を改めて認識した。

④-1取組テーマ決定

【R5年度3月~】

▶ PFの基本的な考え方は令和4年事業で検討し、令 和6年に社会課題解決の取り組み、ノウハウの共有、 意見交換を行い、支援者たちの交流・連携を図る ためのネットワーク構築と定めた。CPは「社会課題を見える化・共有化し、みんなで解決する場」。

4)-2 連携PFの企画・設計 [R6年度3月~]

▶ 各種中間支援団体、孤独・孤立に関係する市の 附属機関などに参画している団体などの関係会員 や、PF趣旨に賛同するNPO団体、民間事業者な どのパートナー会員にも広く協力を呼びかけ、PF会 議を構成した。

(1)

準備段階

(ウ)

設立段階

(I)

自走段階

(5) 関係団体のリストアップ・初期メンバーへの声掛け

【R6年度4月~】

- ▶ 中核となる会議体は、重層的支援体制整備事業における多機関協働のため の既存の会議体をベースとし、不足する分野のメンバーを追加した。その際、会 議開催を兼ねるなどして、負担増にならないように留意した。
- ▶ 全庁的な検討の場としては、地域福祉計画の進行管理のための庁内会議や、 附属機関の所掌事務を加えることで対応した。

- 様々な部署が所管する既存のPFやネットワークの活用に着目し、庁内各課 の協力のもと庁内の既存 PFとその参加団体を洗い出した上で、孤独・孤立 に親和性のある団体等を抽出した。
- 中間支援団体が持つ各種団体とのつながりを活用した関係団体のリストアッ プと声掛けを行った。

⑥ 域内住民・団体への情報発信

【R6年度11月~】

- オフラインを問わず複数のイベントを開催し、啓発活動を行った。
- ▶ PFの広報については、今後発信の対象や内容の検討を進める予定である。

⑦ 連携PFの運営

【R6年度11月~】

- ▶ PF立ち上げを記念するフォーラム(11月)、試行版の作業部会(1月)を 実施し、PFテーマの具体化に踏み出した。
- ▶ 作業部会の試行結果を基に、PFでテーマ設定から課題解決まで行えるよう な運営方法を検討する。

⑧ 地域協議会の設置

【R6年度4月1日】

重層的支援体制事業の相談機関連絡会を基に、 消費生活や自殺対策など必要だと考えた団体に個 別の声掛けを行い、孤独・孤立対策地域協議会を 設置した。



9 PFの拡大・活性化

【R7年度4月~】

- ▶ 目指すPF運営が挑戦的な取組内容となっているため、やみくもに拡大を目指すことはせず、既存 のネットワーク(紹介、企業版ふるさと納税、連携協定)を通じてじっくり理解・関心を高めていく。
- オンライン合意形成PFの導入で、参加者の負担軽減を図る。オンライン合意形成PFは、孤独・ 孤立対策PF以外の取り組み(ウェルビーイングなまちづくり)にも共同利用する予定であり、こ れにより分野横断的な孤独・孤立対策の理解促進を狙う。同時期に導入予定の社会資源管 理システムを活用しPF会員の取組を共有する。

【E.ブレイクスルー要因】 幅広い分野を巻き込める孤独・孤立PFの枠組みを活用し、 関係者に丁寧な聞き取りを行ったことで、現場の課題に即した様々な試行的事業を実現した

~令和4年6月

令和5年3月、令和6年3月

令和6年11月~

取り組み課題

- 新たに重層的支援体制整備事業の取り組みを進めるなかで、地 域づくり支援、参加支援、多機関協働の取組が課題であった。
- 地域共生社会が目指す、福祉分野に限らず、幅広い分野を巻き 込んだ取り組みをしたいと考えるものの、アプローチのアイデアがな かった。

その後の変化

- 重層的支援体制整備事業の枠組みだけでは実現できなかった、 幅広い分野の団体や民間企業も巻き込んだ孤独・孤立PFを立 ち上げることができた。
- PFを通じて関係者や関係団体の取り組みや課題を聞き取り、 ゆるサポの研修やこども食堂研修などの試行的事業の実施につ なげたことで、目指す姿の実現に向け自信を得られた。
- 福祉分野以外の団体等にもこの取組に関心を持ってもらえること が多いと感じる。
- 新たな総合計画のテーマ(ウェルビーイング)にも影響があった。

アクション/ブレイクスルー要因

- 重層的支援体制整備事業における課題でもあった福祉分野 以外の多様な分野の参画が必要となる孤独・孤立PF事業の 理念に共感し、事業に令和4年度応募。
- 令和4年度に検討したPFの目指す姿を踏まえ、孤独・孤立対策 法施行にあわせた令和6年度に地域協議会やPF設置に至った が、既存事業拡充の位置づけのため最低限のスタートとなった。
- 令和6年度PF推進事業の支援を受けることで、検討の方向性 にあったものの予算の制約で着手未定であった各種事業につ いて、成果をみつつ柔軟に展開することが可能となった。

